

わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ わたしを捜さなかった者たちに、見つけられた

第158号

イザヤ 65:1

平成20年11月28日

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません。そしてあなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さに与らせようとして、懲らしめるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって、悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。なえた足が関節をはずさないため、いやむしろ、いやされるためです。すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。へブル人への手紙 12：2-17

悪いことが重なると、日頃から神を信じていない人たちは「神がいるのなら、なぜこのような悪いことが自分や世の中に起こるのか。不幸をもたらすのが神なのか」と、やり場のない怒りを神に、他人に、環境にぶつけますが、神を信じている人たちであっても、苦しみ、悲しみ、不幸が続くと、祈りが聞かれていないように見え、あまりにも辛く、耐えがたいので、つい「本当に神はいるのだろうか。私は神から見捨てられてしまったのだ」と疑いを抱いてしまうことがあります。イスラエルの民の歴史を通して、神がどのようにご介入し続けてこられたかが記されている聖書には、この人生の問題が多く語られています。

今年秋に米国で持ち上がった金融、経済危機は、またたく間に世界中に広がり、ヨーロッパも日本もアジアも完全に巻き込まれてしまっています。实体经济は世界的に着実に悪化、暗い見通しが次第に高まっています。年末にかけて、米国ドルの減価に歯止めが利かなくなると、来年一月には「債務不履行宣言」のような危機宣言が出される可能性がうわさされる中、十一月末に二十一ヶ国からの首脳が集まって、「世界統一通貨」に関する話し合いが行われるなど、世界経済は住宅産業、自動車産業の低迷から破綻、金融業界でも、金融機関危機の余波がデリバティブやクレジットカードシステムの破綻へと広がり、大改革に迫られることになるのではないかと、専門家たちは深刻な懸念を表明しています。年末から来年にかけて、収拾のつかなくなった企業の多くが倒産し、失業者が続出、社会の治安は悪くなり、犯罪が増え、また、物流のストップによって、食糧危機に直面するところも出てくると、悲観的、絶望的なシナリオを描いている人たちも少なくないようです。米国、御三家の自動車会社はGMを筆頭にすでに事実上倒産状態とのことで、もしGMが倒産すれば、世界の二十万に及ぶ関連会社が倒産するとの予測、その余波は当然日本の自動車業界にも及ぶわけですが、世界経済、金融が密接に連動して機能している今日、最悪の金融恐慌に突入すれば、すべての業界において連鎖倒産は必須で、もはや利潤追求の方法ではなく、生き残る方法を真剣に考えなければならない時代に入ることです。まさに終末論の様相です。

このような危機は、問題が表面化するのが得てして、隠ぺいできなくなった最終段階に入ってからなので、あたかも急に訪れるかのように見えるのですが、聖書が語っているように、人類史が始まって以来、犯し続けてきた全人類の罪の結果が今日のような、貪欲、搾取、詐欺、横領を許してきた階層社会の所産で、今に始まったことではないのです。その罪の根は、神に反逆し始めたときから、暗やみに向かって深く深く張り巡らされてき



暗闇から光を切望する時節がまた巡ってきました。

世の光、イエス・キリストは、人類の救いのため手を差し伸べておられます。

主、イエスを受け入れ、信仰、希望、愛が、

皆様の心に灯される時節となりますようお祈りいたします。

たのであり、経済、金融危機はじめ、昨今のすさんだ社会状態から推し量ると、すでに罪の飽和状態をはるかに超えて、地がもう耐えることができないほどになっているのかもしれない。「あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。忍耐をもって、善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです……神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行われるのです」(ローマ人2:5-16)や、「神は、そのような無知の時代を見過ごしておりましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです」(使徒の働き17:30-31)に明記されているように、これまで見過ごされてきたすべての罪が露わになり、裁かれる時代が来ることを聖書は語っていますが、その罪の刈り取りの時代、終末の末期にもう私たちは入っているのです。

この世の方策に尽きたとき初めて、人間は、信じる信じないに関わらず、見えない神に向かって肉体的、精神的苦しみや痛み、また、否定的な感情を訴えるものですが、皮肉にもこれが、人間にとって真の答えを見出す唯一の方法なのです。天地万物を創られた神は、創造の第二日目を除いたすべてを「良し」とみなされましたが、今日私たちが住んでいる世も人間自身も、神が当初創造された状態にあるのではなく、悪しき者サタンによって罪と滅び(死)が入り、汚染され、呪われてしまった状態なのです。神は人間に自由意志を与えてくださり、神の家族の一員として、神を愛し従い永遠に生きる道を選ぶことを望まれたのですが、サタンに誘惑された人間は生きる道ではなく、神の御命令に反逆する滅びの道を選んでしまったのです。サタンの指示によって、禁断の木の実を食べたことにより、サタンに従う者となった人間の体にはサタンが受肉し、その日以来、人間は神から離れた者になり、神とともなるいのちの源、エデンの園から追い出されたのです。人間のみならず人間の支配下に置かれた動植物のすべてにも病、死が入ることになったのは、サタンの支配下で、被造物が罪によって汚れた状態のまま永遠に生きることがないよとの神の憐れみでした。死に向かっての罪の人間史が始まったのです。

全能者なる神は創造の当初から、被造物サタンが全能者に向かって反逆すること、神の似姿に似せて創られる人間に手を出すこともすべて知っておられたので、究極的にはサタンを滅ぼし、人間を救う遠大なご計画を立てておられました。サタンの受肉した体を死をもって滅ぼすことによって、人間の靈魂を肉体から解放し、次に全く新たな身体を与えることによって、人間を靈魂ともに神の家族にふさわしい者に変えるご計画でした。この遠大な人類救済の役割を担う者は、まず、サタンに勝つことができる者でなければなりません。しかし、被造物の極みとして地球に先立って創られたサタン——天の御使いの長としておごり高ぶったため天界から追い出され、それ以来大気圏を徘徊して、神の子をたぶらかし、墮落させようと日夜、策略に明け暮れている——この創られたが死ぬことのない反逆の先駆者に対抗できる者は、人間はおろか、被造物の中にはだれもないのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネ3:16)と使徒ヨハネが教えたように、愛の神は、人類救済のためにご自身が犠牲になる道を選んでくださいました。被造物が神になることは所詮不可能ですが、創造者が人間になってくださることはできるのです。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました」(ピリピ人2:6-8)と使徒パウロが説いたように、神は、御子イエス・キリストを人間として地上に送ってくださり、人間の本来あるべき姿、神に従順な信仰生活の模範をキリストを通して教えてくださったのです。キリストご自身も父の御旨に答えて、ご自分には何の罪もなかったのに人間同胞の罪を背負って死んでくださり、人間が父なる神と新しい関係で生きることができる道、「新約」を開いてくださったのでした。冒頭に引用した「**信仰の創始者**」としてのキリストの道こそ、私たち人間が苦しみ、痛み、絶望的になるとき、見上げ、解放される唯一の道なのです。

全ての人間がサタンの受肉した体から解放されるためには、まずこの罪の体が完全に滅ぼされる必要がありました。キリストはこのことを十字架上で達成してくださいました。キリストは、神の怒りをなだめるために律法が要求した欠陥のない完璧ないけにえとして死んでくださったことにより、肉体を滅ぼし、神と全人類を和解させてくださったのでした。そればかりか、三日後に霊の体で甦られたことにより、肉を通して人間を支配していたサタンの道を完全に打ち砕いてくださったので、今、このキリストによる罪の贖いを信じる者にはみな、死後、キリストと同じ甦りの体が与えられ、永遠に神の御許で生きることができることを約束してくださったのです。この確約があるからこそ、キリストを信じる者は、目前の苦難をものともせず、神の御国に入ることに焦点を当てて今を耐え、生きることができるのです。この試練のときは永遠に続くわけではありません。日々悔い改めて最後までキリストの道を生きる者には、キリストは再臨のとき大きな報いをもって迎えてくださるでしょう。